

猫

成瀬台小学校 六年 福嶋 晓太郎

『光、いい加減に起きなさい！今日で夏休み終わりよ！』

「はーい」

僕は、朝起きるのが苦手だ。

『お、やつと起きてきたわね。今日の朝ご飯は光の好きな焼き鮭よ！』

「いただきます」

しかし眠い。二度寝したい。でも、今日はその気持ちを抑えて、最近町田駅近くの商店街にできたという、猫カフェに行こうと思う。

他の猫カフェとはちょっと違うらしい。

「ごちそうさま」

さてと、準備準備つと。財布持つた、ケータイ持つた、よし。

「ちょっと出かけてきまーす」

『どこ行くの？光』

「し、市立図書館に行こうかなって」

『もう高校生なんだから大丈夫だと思うけど、気を付けてね』

「はーい、いってきまーす」

猫カフェまで歩いて35分か。それなら歩こう。他の猫カフェとは何が違うんだろう。猫の数が異常に多かつたりするのかな。

着いた、ここか。少し狭く、薄暗い路地を通り抜けた先に、明るく店の名前が書いてあつた。【猫カフェねこかぜ】面白そうな名前だな。

『いらっしゃいませ！』

「あのー、他の猫カフェとは違うことがあるって聞いたんですけど」

『はい、ございますよ、こちらの部屋です』

え、何だこれは、部屋にはグレーに白のシマがある太つた猫が一匹いる。一匹だけ？あ、なんか説明の紙がある。なになに、

【この猫は、特殊能力がある猫です。背中にある八本の長い毛のうち、一本だけを優しく抜き取ってください。八分の一の確率で特殊能力を手に入れら

教育長賞
福嶋暁太郎「猫」

れます。残りの七本は、「毎回キレイに割り箸を割れる」、「3ミリ浮かぶ」とができる」などのハズレ能力です。料金は一回5000円です】なるほど、これがうわさの他の猫カフエと違うことか。うーん、高いな。でも、たつた5000円で特殊能力を手に入れられるかもしれないんだよなー。うーん。どうしよう。

やつぱりやろう！八分の一でしょ。

「ど・れ・に・し・よ・う・か・な・て・ん・の・か・み・き・ま・の・い・う・と・お・り。これにしよう！」

ぶちっ！なんだこれ、まぶしー。その時僕は謎の光に包まれた。何が起きたんだ。ん、なんか頭の中に直接言葉が流れ込んでくる。

『おめでとうございます！あなたは「動物の言葉がわかる」特殊能力を手に入れました！』動物の言葉がわかる特殊能力だと！すごい！早速使ってみよう！

まずは、その太った猫に「君、すごいね」と言つてみた。すると「でしょ」と返つてきた。わ、本当に使えた！これはすごいぞ！違うところでも試してみよう。

僕は、利用料金の5000円を払つて店を出た。近くに動物がいっぱいいる場所：あつそだ！まず手始めに、近くにある町田リス園に行つてみよう！僕がリス園に行く途中では、カラスがゴミからあさつた食べ物の量を自慢し合つてしたり、散歩している犬が他の犬と口喧嘩しているのが聞こえた。ワクワクしてきた！僕はリス園へと急いだ。さてさて、リスたちはどんなことを話しているのかなー『ワイワイわいわい』ん？リスたちがあつちの方に集まつていつたぞ。その中心には他のリスより一回り大きなリスがいる。『諸君！我々リスたちは人間に毎日ヒマワリの種だけを食わされたり、勝手に触られたりと不満を持っている。』

『そうだそうだ！』

『もう我々は我慢ならない！』

『そうだそうだ！』

『だから我々は人間を懲らしめたい！そこで、案を出してくれる奴はいるか！』

『ハハの飼育員を襲つて脱出しよう！』

「いや、ハハの人は親切してくれた、だからハハはやめよう」

『なら、市役所を乗つ取るのはどうだ！』

『それは良いではないか！』

『では決行は明日の7時30分としよう！みんな、来た人のかばんに紛れ込んで、ここを脱出し、市役所を乗つ取るぞ！』

『おー』

やばい、大変だ。早くみんなに知らせないと。

僕はそこで目が覚めた。夢か、よかつた。

リストが町田を乗つ取るだなんて、ありえないよ。まだ8時だな。もう一眠りしようかな。

『光、いい加減起きなさい！今日で夏休み終わりよー』

（1598文字）

教育長賞
福嶋暁太郎「猫」

審査員講評

タイトルからは想像できない楽しい展開で、能力に田
覚める仕組みがとてもユニークでした。いきいきとし
た会話で物語が進み、後半のリストたちの可愛らしい口
調が印象的で、まるでアニメを見ているような気持ち
になりました。